

ミカワバイケイソウ *Veratrum stamineum* Maxim. var. *micranthum* Satake

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 15。本地域の湧水湿地を特徴づける寒冷地性植物の一つで、本地域の固有分類群とされている。

【形態】

大型の多年生草本。太く短い地下茎がある。地上茎は高さ 90~150cm、茎葉は互生し、基部につくものは鱗片状、中部以上につくものは 10~14 枚あって長楕円形~楕円形、長さ 20~35cm、幅 8~15cm、先端は鋭頭、基部は鞘になって茎を包み、裏面に短毛がある。花期は 5 月、茎の先端に長さ 20~40cm で 2~9 本の枝がある大きい円錐花序をつけ、多数の花をつける。花は両性花と雄花があり、主軸上のは両性花、他は雄花のことが多いが、ほとんど全部が両性花のこともある。花被片は 6 個、白色、長楕円形で長さ 5~8mm、通常縁に著しい歯状の欠刻があるが、ほとんど全縁のものもある。雄ずいは 6 本、花被片よりやや長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (芹沢 55563, 1990-6-19)、11 作手 (芹沢 55065, 1990-5-23)、12 新城 (芹沢 65010, 1993-5-14)、15 豊橋北部 (芹沢 58545, 1991-5-18)。西：23 藤岡 (鳥居ちゑ子 2618, 2008-4-25)、24 豊田東部 (山田 弘 3, 1995-6-7)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 54779, 19905012)、45 犬山 (山田果与乃 673, 2001-4-30)。22 小原 (北永太郎, 井波一雄 s.n., 1961-6-4, CBM70861) で採集された標本もある。

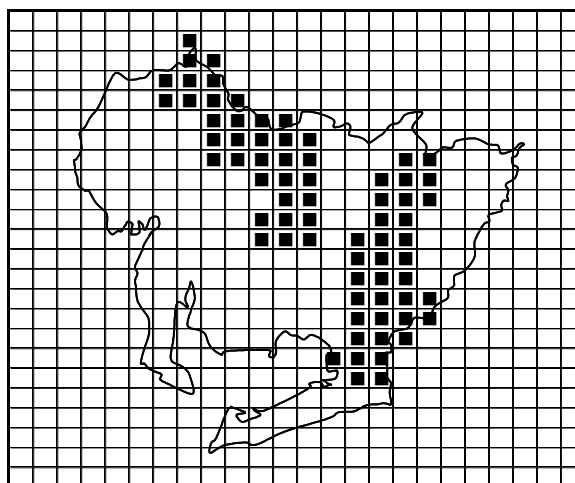
【国内の分布】

本州 (長野県南部、静岡県西部、岐阜県、愛知県)。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の湧水湿地や、その下流部の林内に生育する。時には谷戸田のあぜに生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

設楽西部、藤岡、瀬戸には比較的多い場所があるが、他は小群落が点在しているにすぎない。本来は陽性の植物と思われるが、現在では周囲の樹木が生長し、生育地が林内になってしまっていることが多い。林内に生育しているものはしばしば花付きが悪く、中にはほとんど開花しない群落もある。作手では、かつては湿原に多く生育していたというが、開拓により激減し、現在では僅かに残存しているにすぎない。犬山では明治村の建設に伴い絶滅したと思われていたが、他の場所で生育が確認された。明治村敷地内にも僅かに残存している。

【保全上の留意点】

湧水湿地とその周辺の地形を保全すると共に、場所によっては上層の樹木を伐採し、群落の光条件を回復させることが必要である。物見高い自称自然愛好家の殺到を避けるため、分布情報を公表する際には注意を要する。

【特記事項】

基準変種のコバイケイは亜高山の湿原に生育し、丈が低く、葉が密につく。花の大きさや雄ずいと花被片の長さの比は変異が大きく、はっきりした区別点にはならない。変種とされているが、分化の程度は小さい。ヤチヤナギと共に愛知県に産する寒冷期の遺存植物の代表的なもので、新城市で鳥居喜一氏が発見した当初は、「そんなものがあるはずがない。何を寝ぼけたことを言っているか」と笑われたそうである。彩色画は、2009 年版図版 5 に掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.149, 平草本 I p.28, 平新版 1 p.161, 環境省 p.555, SOS 旧版 p.95, SOS 新版 p.98,100.